

プロの技施設で堪能

県生活衛生組合

出前型サービス開始

県生活衛生同業組合中央会（盛岡市）は、福祉施設で暮らす高齢者らに多様な出前型サービスを提供する「岩手セイエイ百貨店」事業を始めた。6日には宮古地区でスタート。宮古市崎嶽ヶ崎の介護老人保健施設「ほほえみの里」の入所者たちが職人の握ったすしなどの料理を堪能し、「施設の暮らしに張りが出る」と満足そうだった。



握りずしを味わう女性。専門の職人が出向いてこしらえてくれた味に満足そうだった—宮古市の「ほほえみの里」で

のようにプロのサービスを楽しめるようにと—企画。盛岡、北上、久慈、宮古4地区の生活

衛生同業組合連絡協議会で行く同中央会の社会貢献活動で、10月末の盛岡を皮切りに始めた。

宮古地区では、理容美容▽すし▽中華料理—など6種類のサービスを用意。この日は、施設に出向いた職人たちが、マグロの握りずしやマールボー豆腐、魚介のスープなどを作った。約50人の入所者たちは、見た目にもおいしそうなプロの料理にゆっくりと箸を伸ばし、時間をかけてじっくりと味わっていた。ムール貝やカニ、アサリなどの魚介スープをすすった女性は「家にいる時のようだ」とうれしそうだった。

宮古地区生活衛生同業組合連絡協議会の堀田尚志会長は「百貨店のようにいろいろなメニューを取りそろえていきますので、どうぞ利用を」と呼びかけた。サービスの利用は人数制限があり、料金は実費相当額になる。希望する場合、施設は事前に協定を結ぶ必要がある。【鬼山親芳】